

令和6年(2024年)8月2日

今年6月、九州は梅雨入りしている中、

3泊4日の長崎へのツアーに参加した。信州まつもと空港を出発したときは快晴であつたけれど、目的地の長崎に到着するころには雲行きが怪しくなってきた。

宿で夕食を取り、部屋に戻ってテレビのスイッチを入れると、NHKの番組で、終戦の直前に広島・

長崎に落とされた原子爆弾のことが流れてきた。それ

は「原爆の父」と言われたロバート・オッペンハイマーに関する話だった。彼は戦後、広島・長崎には来なかつたけれど、被爆者が渡米して彼を訪ねて面会したとき、涙を流しながら「ごめんなさい」と謝っていたという内容だった。そのニュースは全国版でも放送された。

次の日はあいにくの雨天となり、一時は激しい降り方であった。平和

長崎への旅

公園に到着したら小ぶりになり、園内を散策して、平和の泉、平和祈念像の前で静かに手を合わせることができた。

それにしても、一発の爆弾で死者・負傷者合わせて15万もの人々が犠牲になったとは、想像もつかない。もっと早く戦争をやめていれば、犠牲者は出なかつたのではないかと思いつつ、

平和公園を後にした。バスに乗った後、ふとオッペン

ハイマーの「ごめんなさい」が頭の中で交錯した。もし、日米開戦がなかつたら、広島・長崎への原爆投下もなかつたのでは…。

もうすぐまた終戦記念日がやってくる。自分の年齢から1を引くと戦後の年数になる。改めて平和のありがたさを考える旅になった。

(安曇野市穂高、荻原義重、80歳)

口 差 点

こうさてん